

## A-8

## 博物館の画像資料保存のためのデジタル化とメタデータの作成についての研究 —第一次南極観測隊調査における平山善吉先生の調査資料—

### Study on digitization and creation of metadata for preservation of museum iconographic materials —Photographed by Professor Zenkichi Hirayama in the 1st Antarctic Research Team Survey—

秋山慶樹<sup>1</sup>, 今西諒太<sup>2</sup>, 伊豆原月絵<sup>3</sup>Yoshiki Akiyama<sup>1</sup>, Ryota Imanishi<sup>2</sup>, Tsukie Izuhara<sup>3</sup>

Abstract: This paper we show the present conditions of the organize documents in the museum and suggest the organization method. We performed the organize documents using the museum document during the class of the curator course and a vacation. From the results we made the metadata of the database and suggest the classification to be able to perform the making of the list easily which is necessary for documents preservation and the display. From the making of the database to the preservation of the documents, we suggest the way you treat documents and suggest the way of the organize documents so as not to damage more than now.

はじめに

博物館においては、モノ資料に重きを置くことが多く、ポジフィルムや紙焼き、および各種フィルム資料などの保存については、古い資料でもわずか100年あまりであることから、保存に関しては蔑ろにしていた感を否めない。しかし、その資料の活用は、モノ資料を理解するためにも貴重な情報源であり、かつこれらの画像資料そのものの価値は、益々重要になってくるといえる。

博物館は、いうまでもなく、博物館の資料となる文化財を収集し、それを広く社会に公開して教育およびリクレーションに活かすことが主な目的である。そのためには、博物館の所蔵資料の種別、分類分け、状態や・数量などを正確に調査整理し、目録を作成することが望ましい。

本研究では、資料のデータベース化に加え、その資料を活用し、新たな展示のストーリーを構築するための基本資料を作成することを目的とする。また、データベース化に伴いメタデータを付与することにより、資料同士の関連性を見つけやすくし、学芸員自身の知識を超えた、新たな展示の切り口を生み、魅力的な企画展示制作に寄与できると考えている。

#### 1. 目的

博物館展示に役立つ資料整理の方法を検討し、第一次資料のデジタル化を行うに伴い、メタデータの紐づけ方について研究を行う。今回の資料調査の対象となった資料は、日本大学理工学部教授の伊豆原月絵が日本大学名誉教授平山善吉先生から寄託された第一次南極観測隊（1958年）の紙焼き写真資料およびポジフィルムと、8ミリフィルムなどの画像資料である。寄託された画像資料は、60年を経過し、平山善吉先生宅の倉庫に保存されていた。この貴重な資料は、平山善吉先生が第一次南極

観測隊として、南極に赴いた際に撮影したポジフィルム、8ミリフィルム、16ミリフィルムなどであり、これをデジタル化し、さらにその資料を活用するために、メタデータを作成した。これらの資料は、比較的保存状況は良かったものの、60年余りも過ち、経年劣化は否めない。これらは、貴重な資料であることから、デジタルデータ作成後に目録作成を行い、黴などの除去処理を行い、資料保存に備えることを目的とする。

#### 2. 第1次資料の調査

第1次資料の調査では、前述のように、60年経過したポジフィルムや紙焼きについては、保存のために、早急に資料整理を行い、メタデータの作成が急務であり、2019年の5月のゴールデンウィークを中心に、学芸員課程の有志学生が、資料整理の勉強を兼ねて、調査研究を行った。ポジフィルムはフィルムスキャナー（サンワサプライ株式会社400-SCN024）を用いてスキャンし、デジタルデータを作成した。

また、紙焼き資料に関しては、アルバムに貼ってあるため、そのまま接写を行い、付加された情報の保存に努め、その後、紙焼き写真は1枚ずつ接写し、デジタルデータ化を行い、目録を作成した。



Fig.1 フィルムスキャナーとポジフィルム

### 3.整理方法

Figure 2のようにポジフィルムにカビが生えているケースが多く見受けられ、早急に保存のために除去処理が必要であり、



Fig.2 ポジ・フィルムの黴



Fig.3 拡大図

撮影したもののから順に薄葉紙を敷いた中性紙箱の中に保管する方法をとった。この黴の処理については、まずは、乾燥させた後に除去を試みるが、他の資料に悪影響を与えないように、薄葉紙に包んで保管した。



Fig.4 アルバム資料

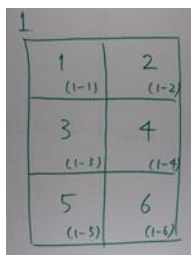


Fig.5 位置決め例

紙焼き写真に関しては、アルバムとなっていたためFigure 4のようにアルバムのページごとと、Figure5のようにそれぞれの位置に番号を付けたうえで一枚ずつ接写し、データ化した。その後、薄葉紙で包み、中性紙箱で保管した。

### 4. 博物館の収蔵品の管理システムについて

博物館における資料目録作成について調査を行ったところ、東京国立博物館、早稲田システムなどで、情報処理に関しての取り組みが行われていた。

4.1 東京国立博物館では、2005年より「博物館情報処理に関する調査研究プロジェクト」を立ち上げ、収蔵品管理システムについては、収蔵品情報に関する業務支援、博物館資料の情報共有を目指し、資料目録の資料情報の項目を整理し、モデル化をはかっている。しかし、この収蔵品の資料目録データの目的は、研究や展示などの活用のためのデータについては含まず、あくまでも収蔵品の受け入れから貸与などの管理を行うことを目的としている。

4.2 早稲田システムでは、I.B.MUSEUM や I.B.MUSEUM SaaS という収蔵品管理システムを提供している。早稲田システム株式会社は、1992年の創業以来、一貫して博物館向けの収蔵品管理システムの開発・運用を行っている。あくまでも博物館の収蔵品のデータ化を目的

とし、他業種向けのシステム開発は行わない。博物館の資料を対象として活動している企業である。

4.2.1 I.B.MUSEUM は、1992年に発売が開始されたシステムで、現時点でのバージョンは I.B.MUSEUM V1.2 となっている。特徴として、蓄積した情報を館運営に利用するためのサポートソフトであり、博物館の様々な要望に合わせて、システムをカスタマイズしている。

4.2.2 I.B.MUSEUM SaaS は初期費用ゼロ、月額利用料3万円という価格で、2010年末のサービス提供開始後、全国の博物館でユーザーを増やしてきた「博物館クラウド」である。この特徴としては、資料データの管理からインターネットを通じた情報配信までをトータルにサポートしており、継続的に追加中の新機能を利用しても完全固定料金制となっている。

4.2.3 他には、導入維持どちらも無料の相乗りアプリ「ミュージアム・アプリ」や、I.B.MUSEUMで整備した資料データをWEBサイトや来館者向け端末のコンテンツなどに活用するためのサポートなど、早稲田システムは博物館向けの多岐にわたるサービスを提供している。

以上のように、多くの博物館に於いて情報管理システムは、資料データの保存と活用には、重要であることから、博物館独自で収蔵管理システムを構築している館もあるものの、多くの博物館は早稲田システムのような博物館の運営に特化したシステム作りを行っている企業に頼っているのが現状である。

### 5. 結論

以上のことから、収蔵管理を行うとともに情報公開可能になるというメリットがあるが、収蔵品を展示や研究に活用するまでには至っていないこともわかった。

### 6. まとめ

資料保存の観点からデジタル化が急務であり、紙面の都合上、メタデータ作成方法の詳細な報告は、次の機会に譲るが、資料目録には、メタデータの作成が不可欠であり、その活用を早急に行うことが重要であると思われる。

### 7. 参考文献

- [1] 守屋豊：『日本ニュース映画』を対象としたデジタルアーカイブシステムの構築とその評価』、情報処理学会研究報告, vol.2010-EIP-47 No.5
- [2] 加藤兼一：「ユニバーシティ・ミュージアム構想からみた金沢美術工芸大学の美術館機能の現状と将来」、金沢美術工芸大学 紀要 No.60 2016